

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



※ P5404 参照



※ P5405 参照



※ P5405 参照

2020.5
No. 749

目次

[大学の動き]

- 理事（非常勤）が発令される 5382
- 理事補が発令される 5382
- 部局長の交替等 5382
- 名誉教授の称号を授与 5386
- 令和2年度概算要求内示概要 5387
- 京都大学 重点アクションプラン（2016-2021）
（第5版）着手事業 5392
- 令和元年度大学院学位授与式・卒業式および
令和2年度入学式の中止について 5394

[部局の動き]

- 医学部附属病院「次世代医療・iPS細胞治療研究
センター（Ki-CONNECT）」を開設 5404
- 第3回京都大学-マヒドン大学 On-site Laboratory
ワークショップを開催 5404

[寸言]

- 社会の中で会社がすること 塩飽 俊雄 5407

[随想]

- 日々、好奇心 5409
名誉教授 田地野 彰

[洛書]

- 工作機械の研究を通して 河野 大輔 5410

[榮譽]

- 柴田一成 名誉教授がヘール賞を受賞 5411
- 斎藤通紀 高等研究院教授・ヒト生物学高等研究
拠点（ASHBi）拠点長が恩賜賞・日本学士院賞を
受賞 5412



京都大学



大学の
動き

理事（非常勤）が発令される

4月1日付けで理事（非常勤）が任命されました。任期は令和2年9月30日まで。



基金・国際渉外担当
久能 祐子（新任）

[目次に戻る ↗](#)

理事補が発令される

【任期：令和2年4月1日～令和2年9月30日】

（補佐をする理事）

国際担当理事	小杉 緑子	生物生産環境学系（大学院農学研究科）教授（新任）
国際担当理事	高橋 基樹	地域研究学系（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）教授（新任）
広報担当理事	岩崎 奈緒子	全学教員部（総合博物館）教授（新任）
研究担当理事	佐治 英郎	学術研究支援室 特定専門業務職員（再任）

[目次に戻る ↗](#)

部局長の交替等

（新任）

文学研究科長・文学部長

宇佐美文理 文学系（大学院文学研究科）教授が、南川高志 文学研究科長・文学部長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



教育学研究科・教育学部長

楠見 孝 教育学系（大学院教育学研究科）教授が、稲垣恭子 教育学研究科・教育学部長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



大学の
動き

薬学研究科長・薬学部長

加藤博章 薬学系(大学院薬学研究科)教授が, 中山和久 薬学研究科長・薬学部長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



人間・環境学研究科長・総合人間学部長

小島泰雄 人間・環境学系(大学院人間・環境学研究科)教授が, 杉山雅人 人間・環境学研究科長・総合人間学部長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



アジア・アフリカ地域研究研究科長

重田真義 地域研究学系(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)教授が, 玉田芳史 アジア・アフリカ地域研究研究科長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



情報学研究科長

河原達也 情報学系(大学院情報学研究科)教授が, 中村佳正 情報学研究科長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



地球環境学堂長・地球環境学舎長

勝見 武 地球工学系(大学院地球環境学堂)教授が, 舟川晋也 地球環境学堂長・地球環境学舎長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



公共政策連携研究部長・公共政策教育部長

建林正彦 法学系(大学院公共政策連携研究部)教授が, 岩本武和 公共政策連携研究部長・公共政策教育部長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



大学の
動き**経営管理研究部長・経営管理教育部長**

戸田圭一 地球工学系(大学院経営管理研究部)教授が, 原 良憲 経営管理研究部長・経営管理教育部長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

**生存圏研究所長**

塩谷雅人 生存圏科学系(生存圏研究所)教授が, 渡邊隆司 生存圏研究所長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

**経済研究所長**

西山慶彦 統合経済学系(経済研究所)教授が, 溝端佐登史 経済研究所長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

**数理解析研究所長**

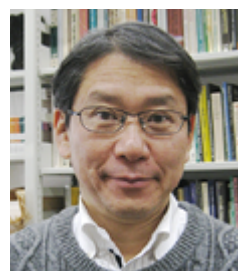
熊谷 隆 数理解析学系(数理解析研究所)教授が, 山田道夫 数理解析研究所長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

**学術情報メディアセンター長**

岡部寿男 情報学系(学術情報メディアセンター)教授が, 中村裕一 学術情報メディアセンター長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

**アフリカ地域研究資料センター長**

高橋基樹 地域研究学系(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)教授が, 重田眞義 アフリカ地域研究資料センター長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。



大学の
動き**産官学連携本部長**

室田浩司 産官学連携本部特定職員が、阿曾沼慎司 産官学連携本部長の後任として選出されました。任期は令和2年4月1日から令和2年9月30日まで。

**(再任)****経済学研究科長・経済学部長**

江上雅彦 経済学系(大学院経済学研究科)教授が、経済学研究科長・経済学部長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和3年3月31日まで。

工学研究科長・工学部長

大嶋正裕 工業化学系(大学院工学研究科)教授が、工学研究科長・工学部長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和3年3月31日まで。

化学研究所長

辻井敬亘 統合化学系(化学研究所)教授が、化学研究所長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和3年3月31日まで。

ウイルス・再生医科学研究所長

小柳義夫 ウイルス・再生医科学系(ウイルス・再生医科学研究所)教授が、ウイルス・再生医科学研究所長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

霊長類研究所長

湯本貴和 霊長類野生動物学系(霊長類研究所)教授が、霊長類研究所長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

東南アジア地域研究研究所長

速水洋子 地域研究学系(東南アジア地域研究研究所)教授が、東南アジア地域研究研究所長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

iPS細胞研究所長

山中伸弥 iPS細胞学系(iPS細胞研究所)教授が、iPS細胞研究所長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

高等教育研究開発推進センター長

飯吉 透 全学教員部(高等教育研究開発推進センター)教授が、高等教育研究開発推進センター長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

大学の
動き

こころの未来研究センター長

河合俊雄 地域研究学系（こころの未来研究センター）教授が、こころの未来研究センター長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

白眉センター長

赤松明彦 白眉センター特定職員（特任教授）が、白眉センター長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

学際融合教育研究推進センター長

重田眞義 地域研究学系（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）教授が、学際融合教育研究推進センター長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和4年3月31日まで。

研究連携基盤長

時任宣博 統合化学系（化学研究所）教授が、研究連携基盤長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和2年9月30日まで。

環境安全保健機構長

吉崎武尚 国際高等教育院特定教授が、環境安全保健機構長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和2年9月30日まで。

高等研究院長

森 重文 高等研究院特別教授が、高等研究院長に再任されました。任期は令和2年4月1日から令和3年3月31日まで。

[目次に戻る ↗](#)

名誉教授の称号を授与

2月18日付けで次の3名に京都大学名誉教授の称号が授与されました。

氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
吉川 左紀子	こころの未来研究センター	松岡 雅雄	ウイルス・再生医科学研究所
梶井 厚志	経済研究所		

4月1日付けで次の66名に京都大学名誉教授の称号が授与されました。

氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
大志万 直人	防災研究所	岡田 温司	人間・環境学研究科
武田 時昌	人文科学研究科	松原 英一郎	工学研究科
木下 正弘	エネルギー理工学研究所	藤田 尚志	ウイルス・再生医科学研究所
HEJNA, James Alan	生命科学研究科	柴田 一成	理学研究科
水野 尚之	人間・環境学研究科	竹山 聖	工学研究科

大学の
動き

氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
梅田 真郷	工学研究科	喜多 恵子	農学研究科
清水 章	医学部附属病院	金山 公三	生存圏研究所
余田 成男	理学研究科	高部 圭司	農学研究科
横出 正之	医学部附属病院	桑原 知子	教育学研究科
富樫 かおり	医学研究科	杉本 淑彦	文学研究科
桂 敏樹	医学研究科	山口 栄一	総合生存学館
矢野 智司	教育学研究科	池野 旬	アジア・アフリカ地域研究研究科
加納 健司	農学研究科	西村 直志	情報学研究科
三谷 章	医学研究科	岩田 明久	アジア・アフリカ地域研究研究科
藤井 正人	人文科学研究所	千木良 雅弘	防災研究所
阪部 周二	化学研究所	稲室 隆二	工学研究科
星出 敏彦	エネルギー科学研究科	縄田 栄治	農学研究科
西田 豊明	情報学研究科	水野 眞理	人間・環境学研究科
川村 孝	環境安全保健機構	福田 洋一	理学研究科
宇仁 宏幸	経済学研究科	塩地 洋	経済学研究科
吉田 豊	文学研究科	井谷 鋼造	文学研究科
大須賀 篤弘	理学研究科	馬場 正昭	理学研究科
服部 文昭	人間・環境学研究科	松原 和夫	医学部附属病院
大槻 勤	複合原子力科学研究所	松田 英男	人間・環境学研究科
小田 滋晃	農学研究科	小佐野 広	経済研究所
北村 隆行	工学研究科	櫻井 繁樹	総合生存学館
福原 俊一	医学研究科	坂井 義治	医学研究科
奥本 裕	国際高等教育院	荒井 修亮	フィールド科学教育研究センター
山下 洋	フィールド科学教育研究センター	小池 薫	医学研究科
河野 広隆	経営管理研究部	武石 彰	経済学研究科
元木 泰雄	人間・環境学研究科	木村 大治	アジア・アフリカ地域研究研究科
山田 道夫	数理解析研究所	上本 伸二	医学研究科
高木 光	法学研究科	大津 宏康	工学研究科

(総務部(人事課))

[目次に戻る ↗](#)

令和2年度概算要求内示概要

1. 機能強化経費

①機能強化促進分：

- ・4つの戦略、19件の取組からなる本学の機能強化の方向性に応じた取組構想に対し、機能強化経費（機能強化促進分）が措置された。

部局名	区分	新規/ 継続	事項（事業）名
戦略①：独創的な先端研究・融合研究の推進による学術・社会のイノベーション創出			
医学研究科	組織整備	新規	がん免疫総合研究センター（Cancer Immunology Research Center: CIRC）（仮称）構想
高等研究院	組織整備	継続	国内外の卓越した研究者の英知集結ハブの機能強化によるグローバル化の推進と若手人材育成体制の整備
教育学研究科	組織整備	継続	社会変革に应答する学際教育学研究拠点の形成 －融合型研究組織による新たな挑戦－
ウイルス・再生医科学研究所	組織整備	継続	個体の中の細胞社会学の確立と応用 －新世代細胞療法へ向けて－
高等研究院	組織整備	継続	国内外の卓越した研究者の英知集結ハブとなる国際研究拠点の機能強化
全学要求事項	プロジェクト	継続	研究力強化のための次世代を担う若手人材育成基盤構築
東南アジア地域研究研究所	プロジェクト	継続	組織統合による革新的生存基盤研究の体制整備
戦略②：学生に主体性の発揮と質の高い学修を促す国際通用性の高い教育システムの構築			
理学研究科 数理解析研究所 基礎物理学研究所 化学研究所 生存圏研究所 防災研究所 生態学研究センター 総合博物館	プロジェクト	継続	数理を基盤として新分野の自発的創出を促す理学教育プログラム
事務本部（教育推進・学生支援部） 高大接続・入試センター	プロジェクト	継続	高大接続型「京都大学特色入試」の導入及びアドミッション・オフィス機能の強化
戦略③：世界標準の教育研究環境の構築と多様なグローバル人材育成			
経営管理研究部・教育部	組織整備	継続	京都大学経営管理大学院のグローバル化「iGSM」構想
文学研究科 経済学研究科	組織整備	継続	文学研究科修士課程 京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻（ジョイント・ディグリー）の設置

大学の
動き

部局名	区分	新規/継続	事項(事業)名
医学研究科	組織整備	継続	大学院医学研究科博士課程 京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻(ジョイント・ディグリー)の設置
事務本部(教育推進・学生支援部) 国際高等教育院	組織整備	継続	Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP)
全学要求事項	プロジェクト	継続	ワールドクラス大学としての戦略的基盤強化
エネルギー科学研究科 エネルギー理工学研究所	プロジェクト	継続	国際先端エネルギー科学研究教育センター国際共同ラボの形成 -オンサイトラボラトリー及びダブルディグリー推進体制の強化-
法学研究科	プロジェクト	継続	国際競争力・貢献力ある法学者養成拠点の形成
戦略④：グローバル化に対応した産官学連携及び最先端で質の高い医療の開発・提供等による社会貢献事業の推進			
医学部附属病院 ウイルス・再生医科学研究所	組織整備	新規	国際臨床研究拠点構想
医学研究科	組織整備	継続	組織再編による多様な高度医療専門職人の養成 -医学物理士・臨床研究管理者・医療ビッグデータサイエンティスト等の養成-
医学部附属病院	プロジェクト	継続	ヒト生体試料(クリニカルバイオリソース)を活用した効率的な医療開発の促進

【参考】機能強化の取組構想 イメージ図

京都大学における取組構想 ビジョン = 将来構想 (WINDOW構想)			
総長のリーダーシップによる学内改革の推進 ・教育研究組織改革(学域・学系制の導入、研究連携基盤) ・人事・給与システムの弾力化(年俸制、クロスアポイントメント制度の導入) ・IRを活用した大学運営 ・特色入試の実施 等			
第3期における機能強化の方向性(重点支援③)に応じた取組			
【戦略①】 油断のない先端研究・融合研究の推進による学術・社会のイノベーション創出	【戦略②】 学生に主体性の発揮と質の高い学修を促す国際通用性の高い教育システムの構築	【戦略③】 世界標準の教育研究環境の構築と多様なグローバル人材育成	【戦略④】 グローバル化に対応した産官学連携及び最先端で質の高い医療の開発・提供等による社会貢献事業の推進
【評価指標】 ●国際共著論文数の増加状況 (H27年:2,306本 → R3年:2,900本) ●異分野共著論文数の増加状況 (H27年:2,492本 → R3年:3,600本) ●人文社会分野ジャーナルへの掲載論文数の増加状況 (H27年:505本 → R3年:670本) ●共同研究実施金額の増加状況 (第2期平均:4,183百万円 → R3年度:6,275百万円)	【評価指標】 ●インターネットを活用したデジタル教材数の増加状況 【OCW】 (H26年度末平均:49件 → 毎年度新たに50件増加) 【MOOCs】 (H26年度末:1件 → 毎年度新たに2件開講) ●履修証明プログラム数の増加状況 (H27年度末:3件 → R3年度末:7件) ●特色入試による入学人数の増加状況 (H28年度:81人 → R3年度末:141人)	【評価指標】 ●学士課程1・2年次を対象とする英語による基礎・教養科目の増加状況 (H26年度:134科目 → R3年度:400科目) ●国際共同学位プログラム「ジョイント/ダブルディグリー」の増加状況 (H26年度末:7件 → R3年度末:21件) ●外国人留学生入学生数の増加状況 (H26年度:2,441人 → R3年度:3,450人) ●大学間学術交流協定締結校数の増加状況 (H26年度末:142校 → R3年度末:200校)	【評価指標】 ●知的財産収入額の増加状況 【特許】(第2期平均:261,595千円 → R3年度:462,450千円) 【マテリアル】(第2期平均:27,154千円 → R3年度:40,730千円) ●本学の研究成果を活用したベンチャー企業数の増加状況 (第2期中:25社 → 第3期中:新たに40社) ●オープンアクセスの推進に伴う京都大学学術情報リポジトリKURENAI Jの論文登録数の増加状況 (H27年度末:141,686件 → R3年度末:210,000件) ●先進医療・先端医療の新規実施件数の増加状況 (H27年度末:17件 → R3年度末:37件)
令和元年度概算要求において精選対象とした評価指標(15指標)			
●国際的に評価の高いジャーナル(TOP5%)への掲載論文数の増加状況 (H27年:721本 → H30年:800本) ●科学研究補助事業採択の向上状況 (H26年度:494件 → H30年度:543件) ※基礎研究(S・A・B・C)新規採択件数 ●研究支援充実のための専任職員の増加状況 【URA】(H26年度末:40人 → R3年度末:50人) 【外国語力基準を満たす専任職員】 (H26年度末:77人 → R3年度末:120人) ●共同研究・受託研究実施件数・金額の増加状況 【共同研究】(第2期平均:824件 → R3年度:1,030件) 【受託研究】(第2期平均:881件・16,627百万円 → R3年度:1,101件・24,941百万円) ●若手研究者の海外派遣者数の増加状況 (H27年度:1,484人 → R3年度:1,800人) ●未踏科学の取組等の推進状況 (H27年度末:40件 → R3年度末:40件以上) ※異分野融合によるユニット等の組織数	●学部における科目ナンバリングの導入状況 (H27年度末:7.5% → H29年度以降:100%) ●部局断片型の教育プログラムの実施状況 (H27年度末:64科目 → H28年度以降:64科目以上) ●アクティブラーニングの手法を取り入れた少人数による課題採求型科目自数の増加状況 (H27年度:197科目 → H28年度以降:300科目) ※ILASセミナー数	●外国人教員等の増加状況 (H27年度末:376人 → R3年度末:500人) ●中長期及び短期の海外留学生数の増加状況 (H26年度末:1,517人 → R3年度末:1,600人) ●国際共同研究の推進状況 (H26年度:972件 → R3年度:1,050件) ※共同研究を目的とした中長期の海外派遣/受入件数	●海外企業・政府機関等との共同研究・受託研究の実施件数・金額の増加状況 (第2期平均:22件・60,500千円 → R3年度:33件・121,000千円) ●がんゲノム情報と時系列臨床情報の統合ビッグデータ構築による登録症例数の増加状況 (H27年度末:0件 → R3年度末:500件) ●がん医療の社会実装のための新たなガイドライン等の作成状況 (H27年度末:0件 → R3年度末:0件/510件、標準作業手順書20件)
精選対象外としたが、京都大学として引き続き取り組む評価指標			

大学の
動き

②共通政策課題分：

32件の取組等について、機能強化経費（共通政策課題分）が措置された。

部局名	新規/ 継続	事項（事業）名
全国共同利用・共同実施分（共同利用・共同研究拠点の強化）【認定に伴う経費】		
人文科学研究所	継続	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点
ウイルス・再生医科学研究所	継続	再生医学・再生医療の先端融合的共同研究
ウイルス・再生医科学研究所	継続	ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点事業
エネルギー理工学研究所	継続	ゼロエミッションエネルギー研究拠点活動の強化
生存圏研究所	継続	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点機能の強化
防災研究所	継続	自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究推進事業
基礎物理学研究所	継続	基礎物理学の発展を目指す国際連携型全国共同研究
経済研究所	継続	先端経済理論の国際的共同研究拠点
複合原子力科学研究所	継続	複合原子力科学の有効利用に向けた先導的研究の推進
霊長類研究所	継続	霊長類研究を基にした国際共同研究拠点の推進
東南アジア地域研究研究所	継続	東南アジア研究の国際共同研究拠点
東南アジア地域研究研究所	継続	地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進
生命科学研究所	継続	放射線分子生物学の研究推進拠点
生態学研究センター	継続	生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点の形成
野生動物研究センター	継続	生息地保全と環境教育を振興する野生動物研究に関する国際研究拠点
全国共同利用・共同実施分（共同利用・共同研究拠点の強化）【国際共同利用・共同研究拠点認定分】		
化学研究所	継続	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点形成
数理解析研究所	継続	数学・数理科学の国際共同研究拠点
全国共同利用・共同実施分（共同利用・共同研究拠点の強化）【プロジェクト分】		
数理解析研究所	継続	宇宙幾何学をはじめとする新しい数学の展開 －数学的概念の再構築を切り拓く「極」の形成－
経済研究所	継続	先端政策分析研究推進事業（第Ⅲ期） －エビデンスベース・ポリシーの推進により豊かな生活を実現する新経済社会システムの構築－
化学研究所	継続	統合物質創製化学研究推進機構
化学研究所 エネルギー理工学研究所 生存圏研究所	継続	グリーンイノベーションに資する高効率スマートマテリアルの創製研究 －アンダーワンルーフ型拠点連携による研究機能と人材育成の強化－

大学の
動き

部局名	新規/ 継続	事項（事業）名
生存圏研究所	継続	生存圏科学の国際化とイノベーション強化
基礎物理学研究所	継続	重力物理学の国際拠点形成
複合原子力科学研究所	継続	量子ビームと核科学の革新的複合利用による先端的物质科学・分析研究拠点の構築
東南アジア地域研究研究所	継続	日 ASEAN 協働による超学際生存基盤研究の推進
事務本部（企画・情報部（学際融合教育研究推進センター）） 文学研究科 教育学研究科 法学研究科 経済学研究科 人間・環境学研究科 情報学研究科 人文科学研究科 経済研究所 東南アジア地域研究研究所 こころの未来研究センター	継続	エビデンス・ベース社会の構築に向けた人文社会科学の学際融合・最先端研究人材養成事業 －ニーズからシーズへ－
全国共同利用・共同実施分（新たな共同利用・共同研究体制の充実）		
医学研究科	継続	設備サポートセンター整備
教育関係共同実施分		
フィールド科学教育研究センター	新規	人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点
農学研究科	継続	次世代の農と食とエネルギーを創るグリーンエネルギーファーム教育拠点
フィールド科学教育研究センター	継続	黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点整備事業
フィールド科学教育研究センター	継続	日本海における水産学・水圏環境学フィールド教育拠点形成事業
数理・データサイエンス教育強化経費		
国際高等教育院	継続	データ科学イノベーション教育研究センター構想 －21世紀のイノベーションを支える人材育成－

2. 病院特別医療機械設備（財政投融资設備）

部局名	事項（事業）名
医学部附属病院	高度急性期診療支援システム

3. 国立大学法人先端研究等施設整備費補助金

部局名	事項（事業）名
医学研究科	複雑系がん免疫総合解析システム

大学の
動き

4. 施設整備費
〈令和2年度当初予算〉

団地等名	新規 / 継続	事業名	構造・階 面 積
医病	新規	ライフライン再生（自家発電設備）	-
医病	新規	基幹・環境整備（浸水対策）	-
吉田	新規	がん免疫総合研究センター	R5-1 6,130㎡
吉田	新規	ライフライン再生Ⅱ（特高受変電設備）	-
瀬戸	新規	実験研究棟改修（生物科学系）	R 1,410㎡【改修】 R1 100㎡【新增築】
医病	継続	中央診療棟等改修その他	SR 23,780㎡【改修】 S 50㎡【新增築】 (中央診療棟)
			SR 16,010㎡【改修】 S3 120㎡【新增築】 (北病棟)
吉田	継続	ライフライン再生（特高受変電設備）	-
吉田	継続	総合研究棟改修（臨床系）	SR 2,070㎡
吉田	継続	総合研究棟改修（ウイルス再生研）	R 4,620㎡
桂	継続	総合研究棟Ⅲ（物理系）等施設整備事業（BOT） （PFI 事業 12-9）	-
吉田	継続	総合研究棟（医薬系）（PFI 事業 13-4）	-

〈令和元年度補正予算〉

団地等名	新規 / 継続	事業名	構造・階 面 積
宇城他	新規	ライフライン再生（給排水設備）	-

（財務部（財務課））

[目次に戻る ↗](#)

京都大学 重点戦略アクションプラン（2016-2021）
（第5版）着手事業

事業名	着手年度
Wild and Wise	
ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム事業 —日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ場としての短期プログラム創設—	2016年度
Go! Reseach , Learning & Language Program (GoRiLLa) ゴー！ リサーチ, ラーニング & ランゲージ プログラム (ゴリラプログラム)	2016年度
京都大学ジャパングートウェイ構想推進支援事業	2016年度

大学の
動き

事業名	着手年度
Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP)	2017 年度
京都大学大学院共通教育実施事業	2017 年度
International and Innovative	
国際性豊かな環境整備事業	2016 年度
全学海外拠点（グローバル人材育成：ジョン万プログラム（職員））展開事業	2016 年度
国際学術ネットワーク強化推進事業	2016 年度
国際化業務推進強化事業	2016 年度
設備整備・共用促進を通じた質の高い教育研究基盤構築事業	2018 年度
研究支援体制高度化事業	2016 年度
教育研究活動実績の更なる情報化推進事業	2020 年度
次世代研究者育成支援事業	2016 年度
研究活動推進事業	2016 年度
先導的研究拠点形成事業	2016 年度
オープンアクセス推進事業	2016 年度
戦略的広報を通じた国際競争力強化事業	2016 年度
産官学連携の新しい「京大モデル」構築事業	2018 年度
戦略的情報発信の推進事業	2016 年度
臨床研究拠点における支援体制の強化	2016 年度
Natural and Noble	
施設・環境マネジメント推進事業	2016 年度
桂キャンパス整備事業	2016 年度
KUINS ネットワークの館内・末端 SW の更新事業	2017 年度
利益相反マネジメント推進事業	2016 年度
Diverse and Dynamic	
留学生宿舍等整備事業	2016 年度
指定国立大学法人構想推進事業	2018 年度
IR を活用した大学運営に向け必要となる体制等の強化	2017 年度
教学運営を支える教育情報活用（教育 IR）推進事業	2016 年度
障害のある学生への支援体制強化事業	2017 年度
障害者雇用促進事業（京都大学業務支援室の設置）	2018 年度
Original and Optimistic	
「高大接続改革実行プラン」を視野に入れた、高大接続事業および入学者選抜方法の検討を行う「高大接続・入試センター」の設立並びに強化	2016 年度

大学の
動き

事業名	着手年度
高大接続による知的卓越人材育成事業（ELCAS）の推進及び新規展開	2018年度
経済的學生支援強化事業	2016年度
博士後期課程 特別進学支援制度（KSPD）の創設	2017年度
京都大学基金寄付募集活動推進事業	2016年度
全学同窓会支援・卒業生連携強化のための推進事業	2016年度
Women and the World	
男女共同参画推進事業	2016年度

(財務部(財務課))

[目次に戻る ↗](#)

令和元年度大学院学位授与式・卒業式および令和2年度入学式の中止について

令和元年度大学院学位授与式・卒業式および令和2年度入学式については、3月23日(月)と3月24日(火)、4月7日(火)に開催予定でしたが新型コロナウイルスの現況を踏まえて中止となりました。式の開催に代わり、山極壽一 総長がしたためた祝辞を一人ひとりの学生に届けるとともに、ご家族の皆様、関係者各位にもご覧いただけるよう、動画配信も行われました。

大学院学位授与者の各分野別内訳は次のとおりです。

修士

学位名	2020年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士(文学)	65	39	104	5	14	19	5,291
修士(教育学)	20	29	49	1	10	11	1,596
修士(法学)	5	11	16	4	8	12	1,532
修士(経済学)	22	13	35	9	12	21	1,927
修士(理学)	257	34	291	13	4	17	11,525
修士(医科学)	8	14	22	1	4	5	391
修士(人間健康科学)	16	41	57	0	0	0	619
修士(薬科学)	48	20	68	4	2	6	580
修士(工学)	643	90	733	53	30	83	33,948
修士(農学)	188	100	288	9	9	18	10,953
修士(人間・環境学) ^{*1}	82	67	149	16	28	44	3,630
修士(エネルギー科学)	118	12	130	5	3	8	2,773
修士(地域研究) ^{*2}	11	10	21	1	0	1	415
修士(情報学)	157	25	182	21	11	32	3,793

大学の
動き

学位名	2020年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士（生命科学）	43	36	79	2	4	6	1,533
修士（総合学術）※2	5	7	12	1	0	1	36
修士（地球環境学）	21	20	41	7	12	19	648
修士（社会健康医学）	-	-	-	-	-	-	66
修士（薬学）	-	-	-	-	-	-	2,299
総計	1,709	568	2,277	152	151	303	83,555

※1：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名を含む

※2：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

修士（専門職）

学位名	2020年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	17	16	33	0	1	1	484
公共政策修士（専門職）	30	7	37	0	2	2	527
経営学修士（専門職）	46	41	87	18	24	42	1,000
総計	93	64	157	18	27	45	2,011

法務博士（専門職）

学位名	2020年3月23日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	98	38	136	0	0	0	2,390
総計	98	38	136	0	0	0	2,390

博士

令和元年11月25日付け、令和2年1月23日付け、3月23日付け

■課程博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2019年11月			2020年1月			2020年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	1	2	3	1	1	2	20	6	26	31	1,142
	0	1	1	0	0	0	5	3	8	9	
博士（教育学）	1	0	1	1	1	2	3	6	9	12	252
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	11	2	13	13	375
	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	
博士（経済学）	0	1	1	0	0	0	10	2	12	13	696
	0	1	1	0	0	0	2	1	3	4	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2019年11月			2020年1月			2020年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（理学）	3	0	3	1	0	1	64	8	72	76	5,687
	2	0	2	0	0	0	8	0	8	10	
博士（医学）	5	1	6	7	1	8	59	18	77	91	10,360
	1	0	1	0	0	0	2	3	5	6	
博士（医科学）	2	0	2	0	0	0	1	1	2	4	109
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（社会健康医学）	1	0	1	1	2	3	3	4	7	11	108
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	76
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	4	1	5	5	1,151
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	7	3	10	10	122
	0	0	0	0	0	0	2	2	4	4	
博士（工学）	3	1	4	8	1	9	56	13	69	82	6,115
	3	0	3	1	1	2	11	6	17	22	
博士（農学）	1	2	3	2	0	2	27	13	40	45	3,059
	0	2	2	1	0	1	6	3	9	12	
博士（人間・環境学）	0	1	1	2	1	3	25	11	36	40	953
	0	0	0	0	0	0	1	6	7	7	
博士（エネルギー科学）	1	0	1	1	0	1	2	0	2	4	403
	1	0	1	1	0	1	1	0	1	3	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	9	11	20	20	275
	0	0	0	0	0	0	3	3	6	6	
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	15	3	18	18	727
	0	0	0	0	0	0	4	1	5	5	
博士（総合学術）※ ¹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	1	3	4	0	0	0	12	6	18	22	441
	1	1	2	0	0	0	1	0	1	3	
博士（総合学術）※ ²	0	0	0	0	0	0	3	3	6	6	14
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2019年11月			2020年1月			2020年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（地球環境学）	0	1	1	0	0	0	2	3	5	6	198
	0	1	1	0	0	0	1	2	3	4	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5	10
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	19	12	31	24	7	31	341	115	456	518	32,275
	8	6	14	3	1	4	51	35	86	104	

※1：情報学研究科修了 ※2：総合生存学館修了

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■論文博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2019年11月			2020年1月			2020年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	2	1	3	0	0	0	2	0	2	5	651
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（教育学）	1	1	2	1	0	1	3	2	5	8	174
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	201
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（経済学）	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	403
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（理学）	0	0	0	1	0	1	5	2	7	8	1,570
	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	
博士（医学）	3	1	4	2	0	2	6	2	8	14	2,199
	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	
博士（医科学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	5
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（社会健康医学）	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	14
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	7
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	773
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2019年11月			2020年1月			2020年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（工学）	0	0	0	1	0	1	3	0	3	4	4,186
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
博士（農学）	3	0	3	1	0	1	8	2	10	14	2,890
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	53
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	29
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	95
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	1	0	1	1	0	1	2	0	2	4	23
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	12	3	15	9	1	10	35	10	45	70	13,352
	0	0	0	2	0	2	2	1	3	5	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■博士課程教育リーディングプログラム

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2019年11月			2020年1月			2020年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	0	0	0	3	3	6	6	16
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
グローバル生存学大学院連携プログラム	0	1	1	0	1	1	5	3	8	10	40
	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	
充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	1	0	1	0	0	0	3	2	5	6	14
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	

大学の
動き

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2019年11月			2020年1月			2020年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
デザイン学大学院連携プログラム	0	0	0	1	0	1	2	2	4	5	22
	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	10
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
総計	1	1	2	1	1	2	16	11	27	31	102
	0	1	1	0	0	0	4	5	9	10	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

学士学位授与者数は次のとおりです。

学士

学位名	2020年3月			左記のうち留学生数			旧制 卒業生数	累計
	男	女	計	男	女	計		
学士（総合人間学）	90	31	121	1	1	2	-	3,089
学士（文学）	114	86	200	1	1	2	4,711	17,803
学士（教育学）	38	34	72	1	0	1	-	3,840
学士（法学）	204	95	299	0	1	1	14,531	38,685
学士（経済学）	218	55	273	6	3	9	8,067	23,944
学士（理学）	243	27	270	0	0	0	2,984	19,769
学士（医学） ^{※1}	84	27	111	0	0	0	5,673	12,946
学士（人間健康科学） ^{※1}	35	95	130	0	0	0	-	1,784
学士（薬学） ^{※1※2}	13	17	30	0	0	0	-	4,006
学士（薬科学）	43	13	56	1	1	2	-	569
学士（工学）	822	84	906	25	9	34	8,606	65,319
学士（農学）	210	99	309	1	4	5	3,392	20,886
小計	2,114	663	2,777	36	20	56	47,964	212,640
附属医学専門部	-	-	-	-	-	-	804	804
理工科大学	-	-	-	-	-	-	944	944
総計	2,114	663	2,777	36	20	56	49,712	214,388

※1：医学部（医学）は平成22年度より3月10日付け卒業

薬学部（薬学）は平成26年度より3月10日付け卒業

医学部（人間健康科学）は平成29年度より3月10日付け卒業

※2：薬学部（薬学）は4年制の薬学部（薬学）を含む（平成18年度より6年制に改組）

大学の
動き

今年度の学部の入学者数は次のとおりです。

令和2年度 学部入学者数

令和2年4月1日現在

区分	一般入試(前期)		外国学校出身者選抜		外国人留学生特別選抜		学士入学		特色入試		編入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女	
総合人間学部	82	117	0	0	2	3	1	1	4	5	0	0	89	126
	35		0		1		0		1		0		37	
文学部	122	213	0	0	0	0	1	1	7	10	0	0	130	224
	91		0		0		0		3		0		94	
教育学部	20	55	0	0	0	0	0	0	4	6	4	6	28	67
	35		0		0		0		2		2		39	
法学部	221	310	2	5	0	2	0	0	14	22	2	4	239	343
	89		3		2		0		8		2		104	
経済学部	190	221	1	4	0	1	0	0	14	18	4	5	209	249
	31		3		1		0		4		1		40	
理学部	285	314	0	0	5	5	0	0	5	5	0	0	295	324
	29		0		0		0		0		0		29	
医学部	89	106	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	91	108
	17		0		0		0		0		0		17	
医学部(人間健康科学科)	29	78	0	0	0	0	0	0	5	28	2	10	36	116
	49		0		0		0		23		8		80	
薬学部	51	80	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	53	84
	29		0		0		0		2		0		31	
工学部	848	933	0	0	26	39	0	0	12	15	5	6	891	993
	85		0		13		0		3		1		102	
農学部	204	292	0	0	3	3	0	0	7	14	0	0	214	309
	88		0		0		0		7		0		95	
総計	2,141	2,719	3	9	36	53	2	2	76	129	17	31	2,275	2,943
	578		6		17		0		53		14		668	

今年度の大学院の入学者数(令和2年4月1日現在)は次のとおりです。

令和2年度 修士課程入学者数

区分	入学			転入学			合計								
	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
文学研究科	62	(10)	45	(15)	107	(25)	2	3	5	64	(10)	48	(15)	112	(25)
教育学研究科	22	(2)	15	(2)	37	(4)	0	0	0	22	(2)	15	(2)	37	(4)
法学研究科	11	(6)	5	(5)	16	(11)	0	0	0	11	(6)	5	(5)	16	(11)
経済学研究科	28	(17)	25	(23)	53	(40)	0	0	0	28	(17)	25	(23)	53	(40)

大学の
動き

区分	入学			転入学			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
理学研究科	255 (9)	42 (3)	297 (12)	0	0	0	255 (9)	42 (3)	297 (12)
医学研究科	16 (5)	12 (6)	28 (11)	0	0	0	16 (5)	12 (6)	28 (11)
医学研究科 (人間健康科学系専攻)	21 (2)	45 (3)	66 (5)	0	0	0	21 (2)	45 (3)	66 (5)
薬学研究科	38 0	15 (4)	53 (4)	0	0	0	38 0	15 (4)	53 (4)
工学研究科	617 (56)	92 (27)	709 (83)	0	0	0	617 (56)	92 (27)	709 (83)
農学研究科	200 (12)	109 (15)	309 (27)	0	0	0	200 (12)	109 (15)	309 (27)
人間・環境学研究科	95 (11)	64 (24)	159 (35)	0	0	0	95 (11)	64 (24)	159 (35)
エネルギー科学研究科	122 (8)	17 (7)	139 (15)	0	0	0	122 (8)	17 (7)	139 (15)
情報学研究科	181 (26)	10 (6)	191 (32)	0	0	0	181 (26)	10 (6)	191 (32)
生命科学研究科	36 (2)	33 (3)	69 (5)	0	0	0	36 (2)	33 (3)	69 (5)
地球環境学舎	14 (3)	24 (14)	38 (17)	0	0	0	14 (3)	24 (14)	38 (17)
総計	1,718 (169)	553 (157)	2,271 (326)	2	3	5	1,720 (169)	556 (157)	2,276 (326)

※ () 内は、外国人留学生 (留学ビザ留学生) で、内数

令和2年度 専門職学位課程入学者数

区分	合計		
	男	女	計
法学研究科 (法科大学院)	105	0	105
医学研究科	22 (1)	18 (2)	40 (3)
公共政策教育部	28 (2)	13 (4)	41 (6)
経営管理教育部	63 (23)	41 (26)	104 (49)
総計	218 (26)	125 (32)	343 (58)

※ () 内は、外国人留学生 (留学ビザ留学生) で、内数

令和2年度 博士 (後期) 課程入学者数

区分	進学		入学		編入学		再入学/転入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
文学研究科 博士後期課程	29(2)	40(6)	0	0	7(2)	15(6)	0	0	36(4)	55(12)
	11(4)		0		8(4)		0		19(8)	
教育学研究科 博士後期課程	10	27(6)	0	0	2	6(1)	1	1	13	34(7)
	17(6)		0		4(1)		0		21(7)	
法学研究科 博士後期課程	7(2)	11(3)	0	0	6(2)	7(3)	0	0	13(4)	18(6)
	4(1)		0		1(1)		0		5(2)	

大学の
動き

区分	進学		入学		編入学		再入学/転入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
経済学研究科 博士後期課程	6(4)	10(7)	0	0	4(1)	5(2)	0	0	10(5)	15(9)
	4(3)		0		1(1)		5(4)			
理学研究科 博士後期課程	90(6)	100(9)	0	0	8(2)	17(10)	0	0	98(8)	117(19)
	10(3)		0		9(8)		19(11)			
医学研究科 博士後期課程	8(1)	12(2)	0	0	8(3)	11(3)	1	1	17(4)	24(5)
	4(1)		0		3		7(1)			
医学研究科 博士課程(四年)*1	1	6	117(13)	148(21)	0	0	0	0	118(13)	154(21)
	5		31(8)		0		36(8)			
医学研究科(人間 健康科学系専攻) 博士後期課程	3	6	0	0	8(2)	17(4)	0	0	11(2)	23(4)
	3		0		9(2)		12(2)			
薬学研究科 博士後期課程	13(1)	16(1)	0	0	3(1)	5(2)	0	0	16(2)	21(3)
	3		0		2(1)		5(1)			
薬学研究科 博士課程(四年)	0	0	6	8	0	0	0	0	6	8
	0		2		0		2			
工学研究科 博士後期課程	63(12)	71(19)	0	0	37(14)	46(19)	0	0	100(26)	117(38)
	8(7)		0		9(5)		17(12)			
農学研究科 博士後期課程	25(5)	35(11)	0	0	7(1)	10(2)	0	0	32(6)	45(13)
	10(6)		0		3(1)		13(7)			
人間・環境学研究科 博士後期課程	29(5)	51(14)	0	0	17(4)	31(7)	1	1	47(9)	83(21)
	22(9)		0		14(3)		36(12)			
エネルギー科学研究科 博士後期課程	5	6(1)	0	0	8(1)	9(2)	0	0	13(1)	15(3)
	1(1)		0		1(1)		2(2)			
アジア・アフリカ 地域研究研究科 博士課程(一貫)	0	0	11(2)	28(3)	1(1)	5(3)	0	0	12(3)	33(6)
	0		17(1)		4(2)		21(3)			
情報学研究科 博士後期課程	18(5)	21(6)	0	0	9(1)	10(1)	0	0	27(6)	31(7)
	3(1)		0		1		4(1)			
生命科学研究科 博士後期課程	12	24(3)	0	0	3(2)	7(4)	0	0	15(2)	31(7)
	12(3)		0		4(2)		16(5)			
地球環境学舎 博士後期課程	3(1)	5(3)	0	0	4(2)	8(5)	0	0	7(3)	13(8)
	2(2)		0		4(3)		6(5)			
経営管理教育部 博士後期課程	0	0	0	0	5	6	0	0	5	6
	0		0		1		1			

大学の
動き

区 分	進学		入学		編入学		再入学/転入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
総合生存学館 博士課程（一貫）	0	0	6(3)	11(6)	0	0	0	0	6(3)	11(6)
	0		5(3)		0		0			
総 計	322(44)	441(91)	140(18)	195(30)	137(39)	215(74)	3	3	602(101)	854(195)
	119(47)		55(12)		78(35)		0		252(94)	

※1：進学5名は、本学他研究科修士課程または専門職課程終了後、当該課程に進学した者

※（ ）内は、外国人留学生（留学ビザ留学生）で内数

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

[目次に戻る ↗](#)



医学部附属病院「次世代医療・iPS細胞治療研究センター (Ki-CONNECT)」を開設

4月6日(月)、医学部附属病院は、iPS細胞を用いた治療などに対応する新病棟「次世代医療・iPS細胞治療研究センター (Ki-CONNECT)」を開設しました。

健常者対象試験に加えて、がんや希少疾患、iPS細胞などによる再生医療領域において、試験薬をヒトへ初めて投与し有効性や安全性を評価する試験 (First in human 試験) をはじめとする早期臨床試験を重点的に実施します。このような早期臨床試験専用病棟は、わが国初となります。

同センターでは、これから院内外そして国内外から先端かつ独創的な試験を受け入れ、それらを迅速かつ確実に創薬開発、医療実用化へつなげることで、がんや難病に苦しむ患者に一刻も早く革新的な医療を届けることに貢献します。

同センターのコンセプトをはじめ、試験受入体制、施設概要等詳細については、Ki-CONNECT Webサイト (<https://www.ki-connect.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>) に掲載しています。



新型コロナウイルス感染拡大を受けて、開設式は開催せず、記念撮影のみ実施しました。シンボルマーク・ロゴタイプの前で(左から中島貴子 医学部附属病院 Ki-CONNECT 副センター長、宮本 享 医学部附属病院長、山中伸弥 iPS細胞研究所長、松田秀一 医学部附属病院先端医療研究開発機構長、武藤 学 医学部附属病院 Ki-CONNECT センター長)

(医学部附属病院)

[目次に戻る](#)

第3回京都大学-マヒドン大学 On-site Laboratory ワークショップを開催

本学は、国立大学法人構想の柱の一つとして掲げた「柔軟かつダイナミックな体制による知の創造」を実現する取り組みとして、海外の大学や研究機関と共同で現地運営型研究室 (On-site Laboratory) を設置し、活動を展開しています。地球環境学堂はそのパイオニアとして、2018年からタイ・マヒドン大学 (Mahidol University, Thailand) とともに本プログラム (On-site

部局の
動き

Laboratory) に参入しました。その第1回ワークショップを2019年3月8日にマヒドン大学で、第2回ワークショップを2019年11月25日に京都大学で開催しました。

このたび、その第3回ワークショップを2020年3月11日(水)に遠隔会議システムを用いて開催し、これまで研究・教育の分野で展開された活動と蓄積された経験の情報交換を行いました。なお、本ワークショップはもともとマヒドン大学のPhayathai, Salaya, Kanchanaburuiの3キャンパスで、3月11日(水)～12日(木)に実施する予定であったものを、COVID-19による日本からの渡航自粛を受け、マヒドン大学の3キャンパスと京都大学の吉田、桂の2キャンパスをつなぐ遠隔開催に変更したものです。京都大学側から21名、マヒドン大学から37名の教員および学生が参加しました。

午前中は、公衆衛生グループ、環境工学グループ、化学工学グループ、農学グループの4つの分科会に分け、2つの遠隔システムで並行して実施しました。環境工学グループは工学研究科の清水芳久 教授とマヒドン大学工学部土木環境工学科のTrakarn Prapasongsa 助教授が、公衆衛生グループでは医学研究科社会健康医学系専攻の原田浩二 准教授とマヒドン大学公衆衛生学部のChakrit Hirunpetcharat 講師が、化学工学グループでは工学研究科化学工学専攻長の佐野紀彰 教授とマヒドン大学工学部化学工学科のSira Srinivas 講師が、農学グループでは農学研究科の神崎 護 教授とマヒドン大学環境資源学部のNarin Boontanon 講師がそれぞれ座長を担当し、各分野における研究やその進展について報告し、両大学の将来の共同研究の可能性について議論しました。

午後は全グループが参加するPlenary Sessionを行いました。マヒドン大学工学部長顧問Chamras Promptmas 助教授と地球環境学堂副学堂長 勝見 武 教授からの挨拶の後、国



Plenary Sessionの様子 (京都大学側)



Plenary Sessionの様子 (マヒドン大学側)



吉田キャンパスの集合写真 (スクリーンの京都大学桂キャンパス、マヒドン大学 Salaya キャンパス、Phayathai キャンパス、Kanchanaburui キャンパスの参加者と一緒)



際戦略本部の安達まり子 講師から京都大学のOn-site Laboratoryプログラムの趣旨を説明し、続いて地球環境学堂の藤井滋穂 教授から、地球環境学堂とマヒドン大学工学部との研究・教育協力（ダブルディグリープログラム，特別聴講生プログラム等）の経緯および実績を報告しました。その後，各グループから，それぞれの分科会での内容とそれを踏まえた今後の協力活動の方針を報告するとともに，活発な意見交換がなされ，閉会しました。

（大学院地球環境学堂）

[目次に戻る ↗](#)

社会の中で会社がすること

塩飽 俊雄



私は1987年の卒業です。在学中は下宿でたむろし、バイト先の洛中のうどん屋に賄ってもらい、部活で深山を彷徨するようなよくあるタイプの京大生でした。言うまでもないですが、多くの人の人生にとってそんな時間は最初で最後でしょう。卒業後に、博士論文の作成や経営学研究科で学び直すために学生っぽい生活に戻った機会もありましたが、気分は戻りませんでした。何物にも囚われない自由で頼りない感覚は、今から思えば誰かに支えられた時間でした。小稿では、あなたを支える社会の中で企業市民として大きな責任を負う会社という存在について、先輩として少し上から目線でお伝えできればと思います。

私の会社は、特殊プラスチック、通称エンプラを作っています。昨今プラスチックといえば、海洋プラ汚染のような負の問題で世界的な話題となっています。南の島のひと気のないビーチに行くと、色鮮やかなプラスチック漂着物を目にします。身近なこの問題を例に、会社が社会問題の解決にどのような役割を持つか、考えてみたいと思います。

すでに多くの人が多くの方の解決策を提案しています。しかしこの問題の難しいところは、プラスチックが海洋環境下で分解しないという技術的課題ではなく、複合的な社会の仕組みに係わるという点です。現代社会は、プラスチックなしに成り立ちません。食品パッケージに使うプラスチックは、食品の保存期限を延ばし、流通ロスを減らし、軽量化で輸送負荷を減らし、お店を省人化します。これら機能を、紙やガラスですべて代替する、あるいはパッケージを使わないで解決するのは難しいことです。また、海洋環境で生分解するプラスチックを使えば問題を解決できるかと言えば、既存の生分解性プラスチックは、性能面、コストや供給力等の観点で広く普及するには多くの課題があります。そもそも生分解性なら海洋に流出してもいいのかということも疑問です。

最近の流れとして、この問題を解決するために循環型社会、“サーキュラーエコノミー”を確立し、ワンウェイで使うプラスチックをリサイクルやリユースに変えようという取組みが、特に欧州で具体化しています。大規模なサーキュラーエコノミーを実現するためには、公共がその仕組みを保証し、必要なコストを応分に負担するという合意の下で、技術的にはリサイクルしやすい素材が求められます。このような社会の要請に対し、現実的な解決案を見つけることが企業の役割です。PETボトルのリサイクルを例にとると、欧州の目指す仕組みでは、ボトル本体とフィルムラベルをリサイクル工程で人手を介さず分離できることが重要です。PETとラベルを簡便に比重差で分離するためには、ラベルを水に浮く、そしてリサイクルしやすい単一素材で作ることが必要です。さらに美しいデザインなど機能面やコストも重要です。多くの会社がこの課題に取り組み、政策的な支援も進んでいることから、2025年には新技術が社会実装されると思います。

一方、日本でのPETボトル回収においては、欧州のマテリアルリサイクルを目指す方向性と異なり、すでに高度なエネルギー回収の仕組みが確立しています。だからといって、日本社会がこのままでいいと言い切ることはできません。少なくとも企業はグローバルに活動

寸言

するので、欧州での変化は直接日本企業に影響します。将来、仮に欧州の仕組みが世界標準規格となるような場合、日本社会も対応を迫られます。現在、世界各地で起こる変化は、売上や収益状況を通じてリアルタイムに日本企業にも伝わってきます。そのようなダイナミックな環境の中では、世界に散らばる社会問題の解決に貢献できる会社が生き残り、社会問題を悪化させる会社は淘汰されるでしょう。しかしNPOと異なり営利団体としての会社の難しくて面白いところは、社会への貢献と、会社存続に必要な成長や収益を両立させないといけないことです。自分の食い扶持は自分で稼いで成長する、そのためにお客様、ひいては社会に貢献する、私は会社に入って初めて自律の意味を分かったように思います。

末尾に、皆さんが学生生活を楽しみ、何かを学び、何かに失望し、やがて社会を支える存在として共に働ける日が来ることを本当に楽しみにしています。

(しわく としお、ポリプラスチックス株式会社代表取締役社長、
昭和 62 年工学研究科修了)

[目次に戻る ↗](#)

随想

日々，好奇心

名誉教授 田地野 彰



“I am neither especially clever nor especially gifted.

I am only very, very curious.” — Albert Einstein

京都大学を離れて、はや2年が経ちました。良き先輩や同僚、職員の方々、そして多くの個性豊かな学生たちに恵まれ、実りある教育研究生活を送りました。京都大学で最初の教育言語学の研究者として平成14年に着任し、外国語（英語）教育研究に従事しました。研究人生の半分近くを、京都大学の「自由の学風」に吹かれて過ごすことができたのは、私にとって幸運でした。

さて先日、東京の某高等学校の校長から色紙を頼まれました。創立110周年を記念した事業の一環として高校生たちに激励の一言をぜひ、とのリクエストでした。聞けば、これまでの色紙揮毫者たちはみな各界の錚々たるメンバー。光栄に浴するも束の間、好きなウイスキーもほどほどに、あれやこれやと考えあぐねた末、贈ったメッセージが私のモットーである「日々，好奇心」でした。

思い返せば、教室は個性の集まりで、私の好奇心を掻き立てる刺激の宝庫でした。人間・環境学研究科での院生指導に加えて、国際高等教育院にて全学の教養・共通教育の企画・運営に携われたことは、今となっては貴重な財産です。とりわけ全学を対象とした英語のクラスでは、興味や専門が異なる学生たちの個性が教室内で輝き響きあい、そのクラス独自の雰囲気醸し出していました。ある学生の質問が次々とユニークな質問や珍回答を呼び起こし、担当教員として期待以上の驚きと喜びを味わったものです。また、総合人間学部の専門科目の授業では、他学部の学生や大学院生たちも参加し、学際的な視点から言語教育論について議論を交わせたことも、懐かしき良き思い出です（学部生たちが毎回、世界の一流雑誌に掲載された論文もなんのその、容赦なく批判していたことには、若さゆえの大胆発言に感心し、心の中で拍手喝采したものです）。

Why this now? (なぜ、これを、いま?) —これは、私が英国留学中に恩師からいただいた言葉です。最初の2語 (Why this) は好奇心・探究心に関わる質問であり、最後のnowは、日進月歩の研究にとって非常に重い問いかけです。論文の執筆者として、また、学術雑誌の査読者・編集者として、今も変わらず大切にしている言葉です。授業では、この言葉を絶えず学生たちに伝えてきました。その甲斐あってか、学生たちは予想を超えた活発な議論を展開してくれました。千差万別な意見や主張が互いに影響しあって化学反応を起こし、創発特性を生み出すことこそ、京大の京大たる所以と言えるでしょう。

恩師のこの言葉を思い出しながら、京都大学での唯一無二の16年間を糧に、これからも「日々，好奇心」でまいります。

(たじの あきら、平成30年退職、元国際高等教育院教授、専門は教育言語学)

[目次に戻る ↗](#)

洛書

工作機械の研究を通して

河野 大輔



私は工作機械に関する研究をしている。工作機械とは、金属や樹脂などの材料を加工して、型や部品を作るための機械であり、ものづくりの基盤である。工作機械は、手ではとても削れない硬い金属をさくさくと削ったり、見た目には分からないレベル（例えば μm レベル）で寸法を調整したり、一瞬で工具や工作物を自動交換したりと、大変恰好がよい。子供のころから工作と機械は好きであったが、工作機械という言葉を知ったのは大学に入ってからであった。我が国は工作機械分野で世界トップクラスの技術力を持っており、世界をリードする役割にある。

近頃では、今から始める研究テーマとして、自分が退職する頃において、注目され始めるだろうテーマと、胸を張って子供に自慢できるテーマを考えている。前者の案は瞬間工作機械である。図面と材料を準備すると、即座に、例えば10秒で加工が完了する。自動車部品の加工などでは数秒で終わる加工も多いが、一方では、金型や航空機の部品などで丸1日以上かかる加工も存在する。これらの加工が全て10秒で終了するなら、どのような世の中になるだろうか。このテーマは話が突飛すぎて、まだ取り掛かれていない。

後者はサステナビリティへの貢献であると思う。今後20～30年で社会のニーズは予想がつかないほど様々に変化すると思うが、これだけは変わらないと考える。現状、我が国のものづくりにおいては、品質と生産性の向上が最優先であり、低環境負荷が積極的に取り組まれているケースは多くないと感じる。昨今のSDGsへの関心の高まりで風向きが少し変わることを期待したいが、まずは今日の食い扶持という事情もよく分かる。

材料から始まり、製品が使用されて廃棄されるまでのライフサイクルコストを最小化すべきであると思うが、サプライチェーンが複雑すぎて、ある変化がコストに与える影響はもはやよく分からない。また、人間の労働をどのように考慮すべきかも難しい問題である。もし全て人力で加工するならば、工作機械の稼働エネルギーは必要ないが、人間も食料や環境の維持に資源を必要とし、加工に時間がかかる。という訳で、頭はもやもやするものの、ひとまずは工作機械の冷却エネルギーを減らす研究を始めてみた。

サステナビリティの実現のように、社会において先延ばしにされているテーマにおいては、短期的な成果のみを求められない大学の研究者こそが、必要とされた際に基礎技術を提供できる準備をしておくべきと思う。工作機械と生産加工に関わる研究を通して、3人の子供に「ここまでは頑張ったから後もなんとかせえよ」と言える社会を残したい。

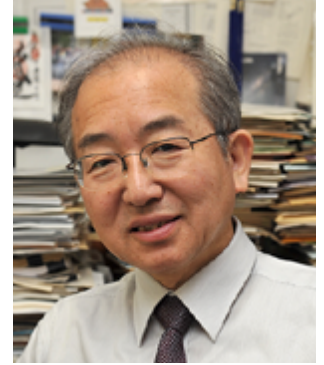
（この だいすけ、工学研究科准教授、専門は機械工学）

[目次に戻る ↗](#)

栄誉

柴田一成 名誉教授がヘール賞を受賞

このたび、柴田一成 名誉教授（受賞当時 理学研究科教授）がアメリカ天文学会太陽物理学分科会のヘール賞の受賞者に決まりました。この賞は、アメリカ天文学会太陽物理学分科会が世界の天文学者の中から太陽物理学に大きな貢献のあった人を表彰するもので、太陽分野では世界最高峰の賞です。太陽黒点磁場の発見や、パロマ山5mの大望遠鏡の建設で著名な米国の天文学者、ジョージ・エラリー・ヘール（George Ellery Hale）（1868 - 1938）にちなんで1978年に創設された賞で、柴田名誉教授の受賞は日本人としては初めてとなります。



柴田名誉教授は、太陽および宇宙における磁気プラズマの特性や振る舞いに関する極めて優れた研究成果を認められ、今回の受賞となりました。特に、太陽大気中のジェットの見つけ、太陽ジェット・スピキュール・質量放出に関する独自の理論と数値シミュレーション、太陽型星でのスーパーフレアの発見が評価されました。

柴田名誉教授は、今回の受賞について「ヘール賞は私が大学院に入った頃に創設された世界で最初の太陽物理学分野の賞で、40年を超える歴史があります。1978年の第1回受賞者は、京都賞受賞者（2003年）でもあるパーカー先生。先生は、太陽風の予言で有名ですが、最近では、太陽に最も近づく探査機の名前パーカー・プローブの名前で知られていますね。ご存命中に探査機に名前がついた最初の研究者でもあります。また太陽宇宙電磁流体力学のパイオニアでもあります。そういうわけで、憧れのパーカー先生に恐れ多くもちょっと近づけたという感じで、チャンドラセカール賞とはまた違った感激にひたっています。」とコメントしています。

米国ウィスコンシン州マディソン市にてオンライン開催されるアメリカ天文学会年会において、6月3日（水）に受賞記念講演が行われる予定です。

【関連リンク】

<https://spd.aas.org/node/71>

（大学院理学研究科）

[目次に戻る ↗](#)

栄誉

齋藤通紀 高等研究院教授・ヒト生物学高等研究拠点
(ASHBi) 拠点長が恩賜賞・日本学士院賞を受賞

齋藤通紀 教授は、平成7年京都大学医学部を卒業、同11年同大学大学院医学研究科博士課程を修了し、同年医学博士の学位を授与されました。その後、平成11年英国ケンブリッジ大学博士後研究員、同15年理化学研究所発生・再生科学総合研究センターチームリーダー、同21年京都大学医学研究科教授を経て、同30年10月に京都大学高等研究院教授・ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) 拠点長に就任し、現在に至ります。

今回の恩賜賞・日本学士院賞受賞の研究題目は、「生殖細胞の発生機構の解明とその試験管内再構成」です。齋藤教授は、マウス生殖細胞の形成機構を解明し、マウス多能性幹細胞から始原生殖細胞様細胞を試験管内で誘導、精子や卵子、健全な産仔を作出することに成功しました。その実験系に基づき、エピゲノムプログラミングや卵母細胞分化機構・減数分裂誘導機構など、生殖細胞の発生における基幹現象の分子機構を解明しました。また、カニクイザル初期胚の発生機構を解析し、マウス・サル・ヒトにおける多能性細胞系譜の特性や霊長類生殖細胞の発生機構を解明するとともに、ヒトiPS細胞から始原生殖細胞様細胞、さらに卵原細胞を誘導し、ヒト生殖細胞発生過程の試験管内再構成研究の礎を築きました。齋藤教授の研究は、生命の根源たる生殖細胞の発生機構を解明することでヒトや霊長類の進化機構を明らかにするのみならず、不妊や遺伝病・エピゲノム異常の原因究明につながり、医学に新しい可能性を提示するものです。

なお、齋藤教授の卓越した業績に対し、これまでに平成26年日本学術振興会賞、同年日本学士院学術奨励賞、同28年武田医学賞、同30年持田記念学術賞、令和2年朝日賞、上原賞、ISSCR Momentum Awardなど、多数の賞が授与されています。



(高等研究院)

[目次に戻る ↗](#)京大広報
No.749

令和2年5月31日 発行

発行 京都大学総務部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp※ご意見・ご感想をお寄せください。
「京大広報」の既刊号は、次のURLでご覧いただけます。
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/>

京大力、新輝点。

京都大学は2022年に創立125周年を迎えます
URL : <https://125th.kyoto-u.ac.jp>